



『愚かさ』という パンデミックを生き抜け。

思考停止からの脱却と、真の「負ける勇気」。



あなたは「スマホゾンビ」になっていないか？

地下鉄を見渡してほしい。誰もが同じ角度で首を垂れ、スマホの画面に吸い込まれている。

これは「休憩」ではない。知性的識別能力が崩壊し、脳細胞が一つずつ侵されていく感染プロセスだ。

**「愚かさは悪意よりも危険である」
悪意には対抗できるが、確信を持った愚か者
(思考停止した人間) に対話は通用しない。**

特効薬はないが、治療法はある。

それは「孤独」を選ぶことだ。

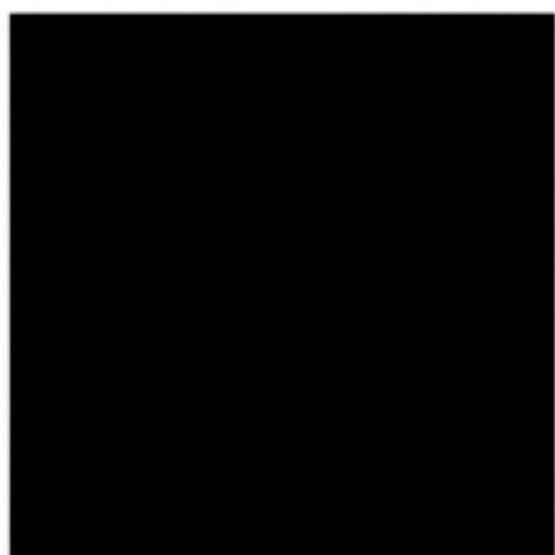


1. 情報の奔流を止める：通知を切れ。ニュースを速断しろ。
2. 沈黙を取り戻せ：自分自身と向き合う時間を持て。

**思考停止した「自動人形」にならないための、
唯一の抵抗手段。それが孤独だ。**

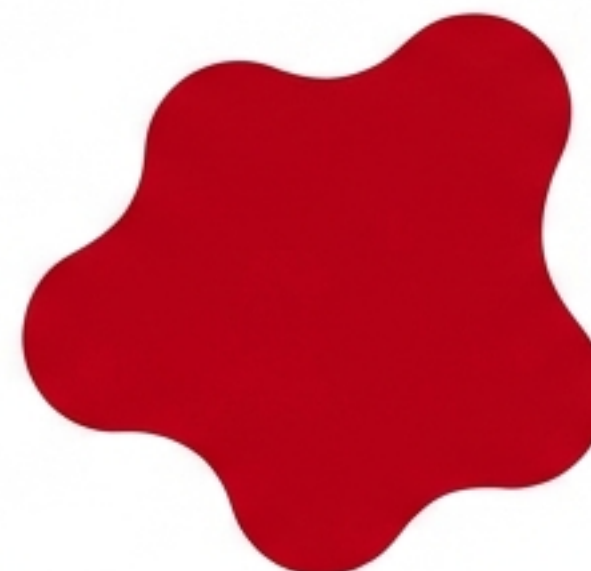
知性とは、「昨日の自分」を裏切る勇気だ。

偽の誠実さ (False Integrity)



一貫性に固執する。
自分の間違いを認めない。
「意見を変える奴は信用できない」と思い込む。

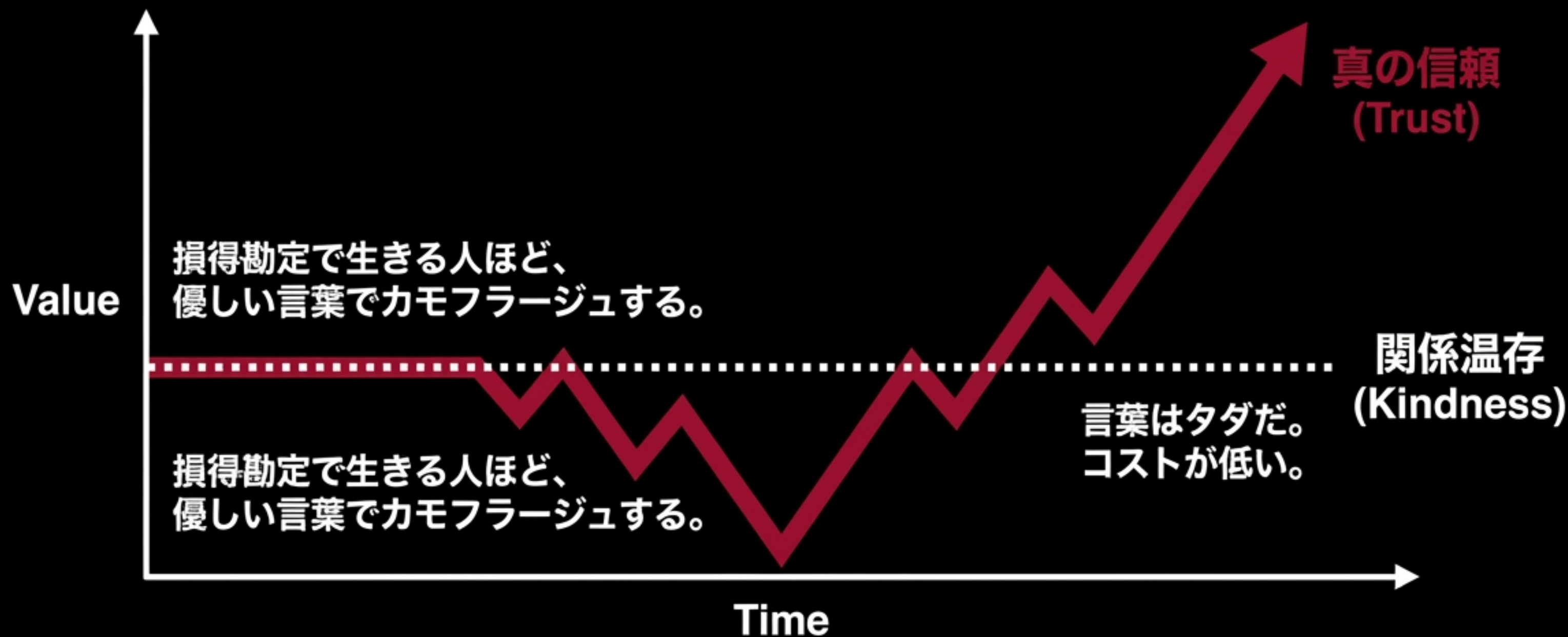
真の誠実さ (True Integrity)



新しい事実に出会ったら、
即座に意見をアップデートする。
柔軟に変化し続ける。

「意見を変える人の方が優秀で誠実だ。自分の意見は絶対に間違っていないとして突き進む人こそ、不誠実である」

優しい言葉の「コスパ」に騙されるな。



摩擦と不快を避けた関係は「偽の協調性」だ。
真の信頼は、リスクを取って成長を目指す過程にしか生まれない。

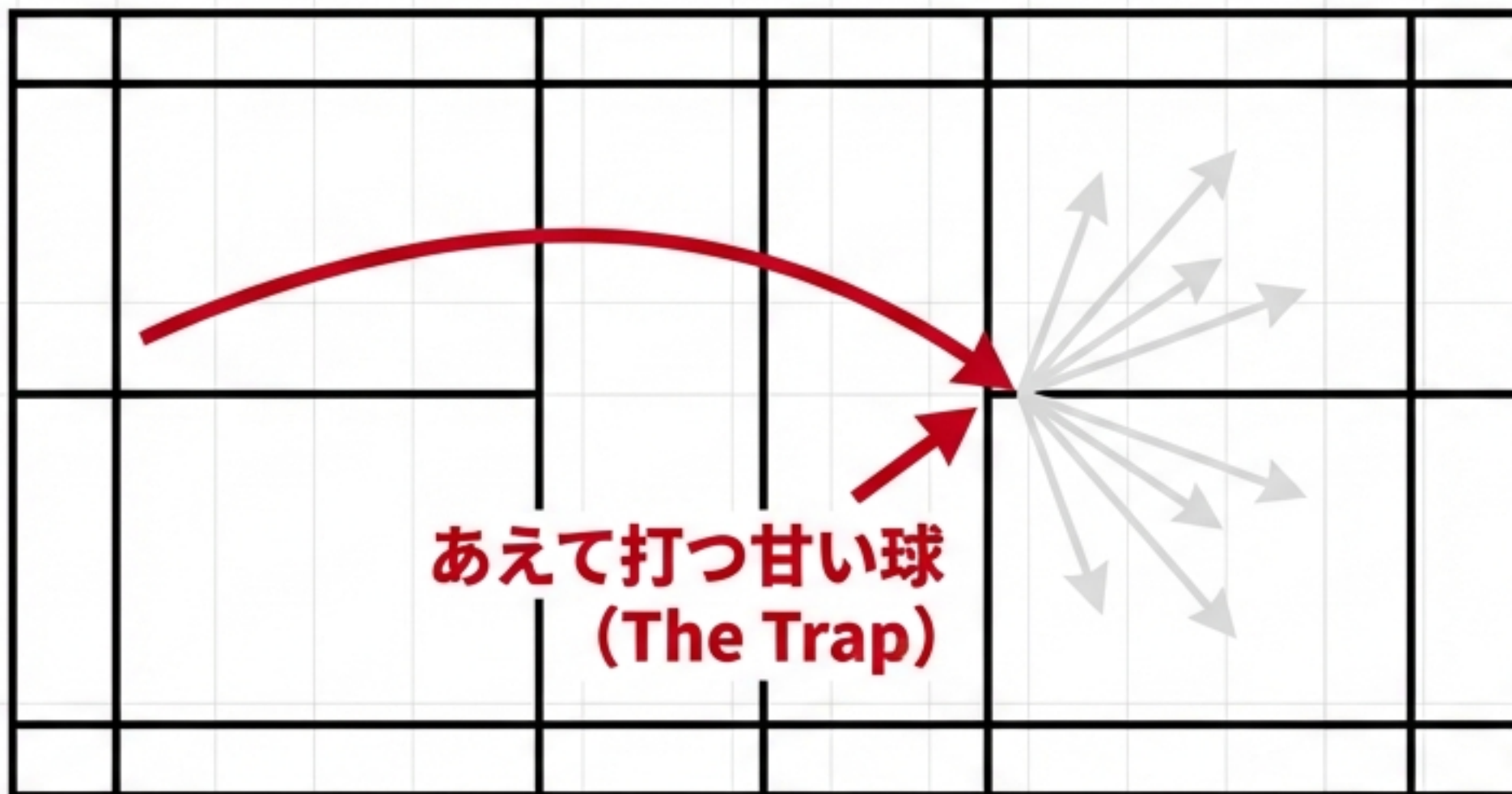
徳川家康に学ぶ 「負け方」の美学。



練習は「勝つ場所」ではない。
「負け方を学ぶ場所」だ。

- 徳川家康や劉邦は、何度も負けて生き延び、戦いを学習した。
- 目先の1本を取りに行くのではなく、「どうやられに行くか」を試す場所が練習である。

「手堅さ」を捨てる。相手を「操る」ために遊べ。



脳機能の逆説：

あえて少し甘い球を打つことで、相手の緊張感を高め、こちらの集中力を上げる。

空振りの美学：

相手に全力で振らせて空振りさせるようなネットショットこそが、至高のプレー。

ミスをしないだけの「手堅いプレー」は、思考停止のゾンビと同じだ。

我々は死なない。 なぜ1点を恐れる？

戦国武将は負けたら死ぬ。

しかし、バドミントンで負けても命は取られない。

なのに、なぜ「1本やられたくない」と縮こまるのか？

「救いようのないレベルなんだから、いくらでも負けられるじゃん(笑)」

「死ぬほど負けて学習しろ。ギリギリを狙うな、おみくじを引くな！」



思考停止を打ち破る「5つの掟」

1 意見を変えろ

一貫性より柔軟性を。それが知性の証だ。

2 孤独を選べ

情報の洪水を遮断し、自分の脳を取り戻せ。

3 優しさを疑え

耳障りの良い言葉は、成長を阻害する麻薬だ。

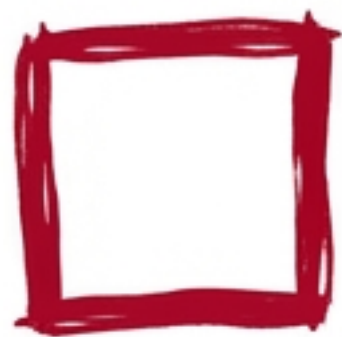
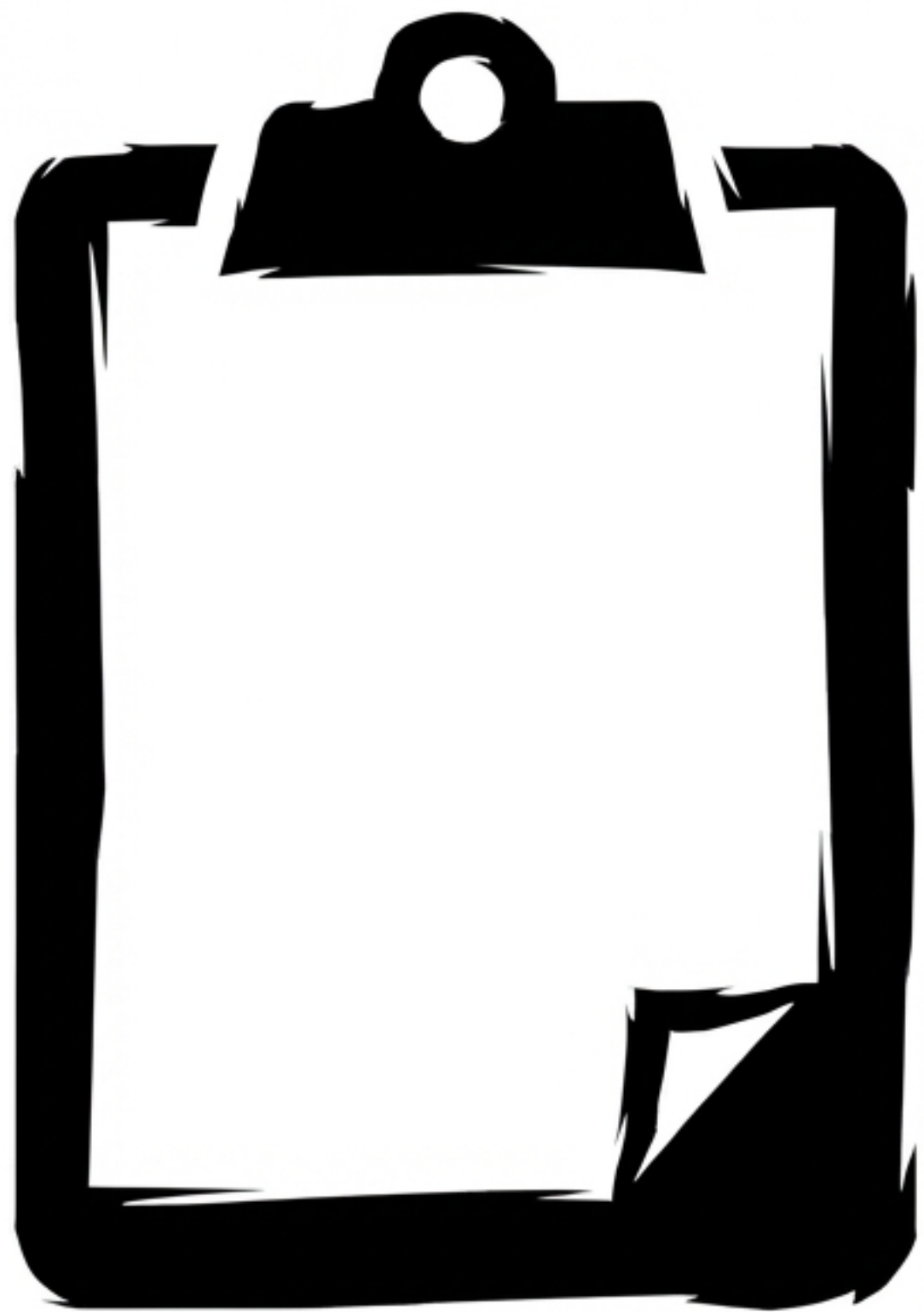
4 派手に負ける

練習は実験室だ。手堅く守るな、リスクを冒せ。

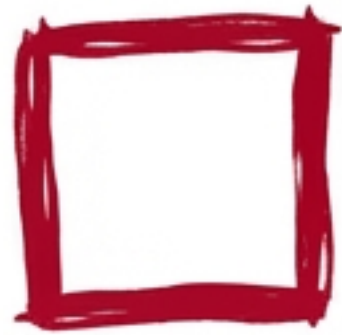
5 相手を操れ

コートに返すな、相手の脳と対話しろ。

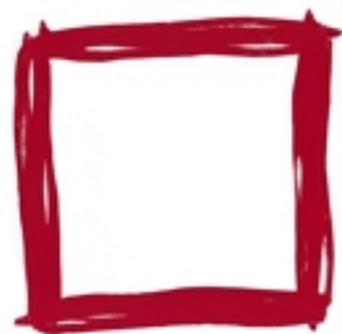
明日のためのアクション・チェックリスト



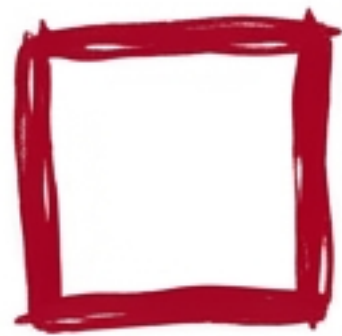
**今日、自分の信念を一つ
疑ったか？**



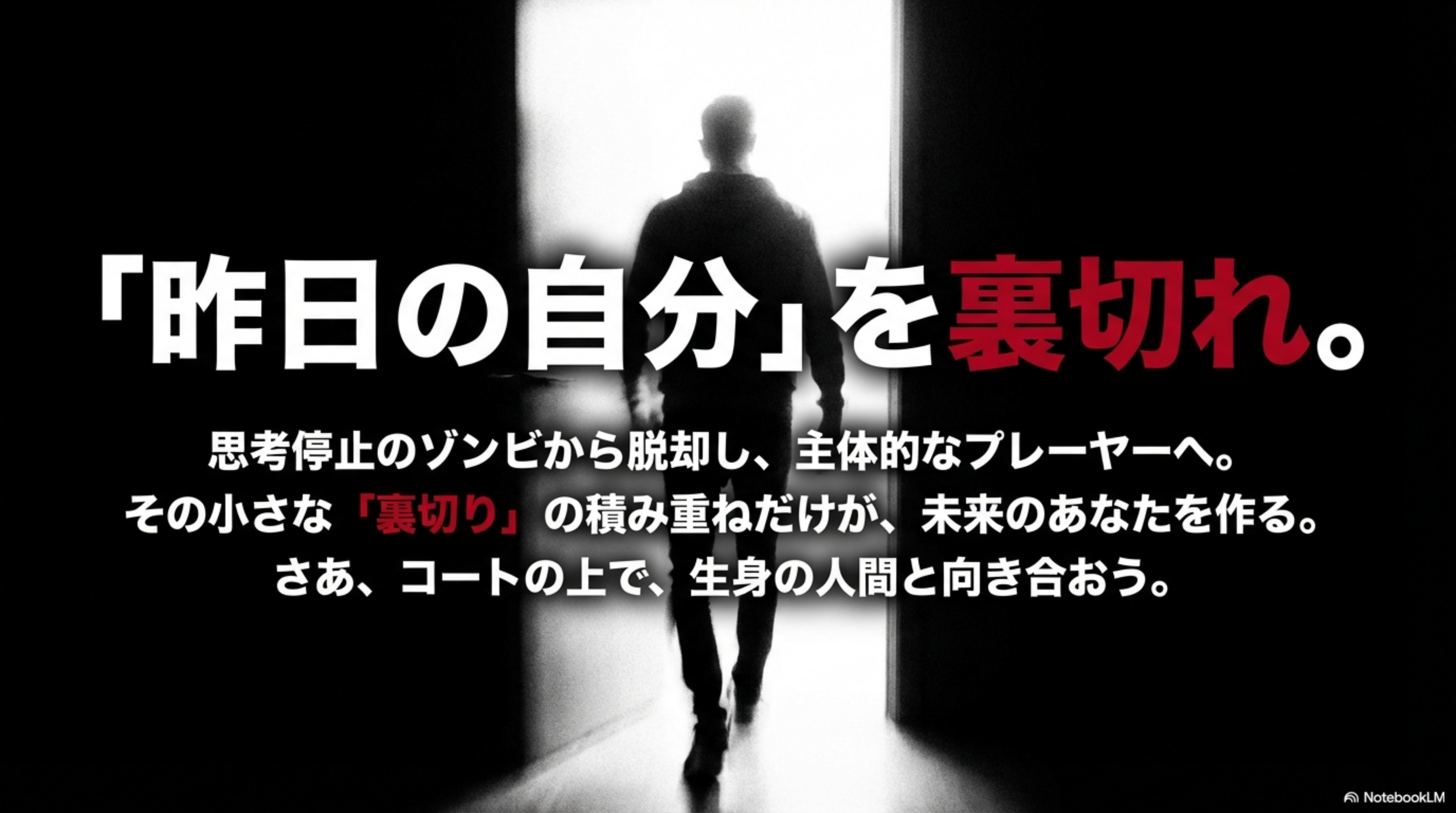
**スマホを置き、沈黙の中で
考える時間を持ったか？**



**練習で、あえて「打たれる」
リスクを冒したか？**



**優しい言葉に逃げず、
摩擦を恐れずに行動したか？**



「昨日の自分」を裏切れ。

思考停止のゾンビから脱却し、主体的なプレイヤーへ。
その小さな「裏切り」の積み重ねだけが、未来のあなたを作る。
さあ、コートの上で、生身の人間と向き合おう。

ここに書かれたのは、熱量のほんの一部に過ぎない。



実際のオンライン教室では、
さらに踏み込んだ技術論、
生のコーチング、
そして「**熱**」が共有されている。

テキストでは伝えきれない、
ニュアンスと衝撃を目撃せよ。

覚悟は決まったか？ 世界一熱い授業を体験せよ。

オンライン教室の動画を見る

Phoenix-Aichi Online Class (2025.06.03 Report)

PHOENIX愛知

Blog URL / Official Website ▲

Contact: 080-6910-0479 ▲

Social Media Handles 
(Twitter, Facebook)